



コウヤマキ ■ B・4



年齢約300年（指定時）、樹高約7mの、稀にみる巨木です。
〔昭和54年11月13日 市指定〕

コウヤマキは、常緑針葉高木で福島県以南から四国、九州の海拔600～1300mの山地に分布し、特に紀州（和歌山県）の高野山に多いのでこの名前があります。

材質は水に強く風呂桶、橋、流し板などの建築資材や庭園や寺院などの庭木用として用いられています。

このコウヤマキは、植栽されたものですが、推定樹齢約300年（指定時）、樹高約30mと市内では稀に見る巨木です。

〔昭和35年1月28日 市指定〕

※個人の宅地内にあるため、許可を得て見学して下さい。

下篠井のイヌシデ ■ B・4



イヌシデはカバノキ科の落葉広葉樹で、関東地方では雑木林を構成する主な木々の1つです。普通は高さ12～15m、直径0.5mほどですが、この下篠井のイヌシデは、樹高約15.5m、周囲約2.66mもあり、このような大木は珍しいものです。

このイヌシデは、約60度の角度で南側に傾いたように枝を広げています、春には若葉が美しく、真夏を過ぎるころにはたくさんの実を飛ばし、秋には葉が黄色く色づきます。

〔平成9年3月21日 市指定〕

上徳次郎のケヤキ ■ C・5



地元では古くから知られている巨木で、「智賀都神社のケヤキ」から北西約500mに位置し、この個体と同程度であるためか、智賀都神社のケヤキの兄弟と言われている。樹高約33m、目通り周囲約8mで、県内の市町村指定のケヤキの中でも最大である。古木であるにもかかわらず、ケヤキ特有の精美的な円錐形を呈している。昭和35年頃の台風により枝が折損し、その樹洞からイロハモミジが生育しており、この個体に彩を添えている珍しい個体でもある。推定樹齢700年(指定時)。

〔平成17年11月7日市指定〕

※個人の宅地内にあるため、許可を得て見学してください。

徳次郎智賀都神社祭礼付祭屋台 C・5

智賀都神社は、徳次郎六か郷（西根・門前・田中・上町・下町・中町）の鎮守で、毎年7月31日、8月1日に宵祭、例大祭が行われていましたが、現在は3年に一度、7月の最終土曜日に行われます。

屋台は、江戸時代から明治時代にかけて造られた彫刻屋台です。彫刻は石那田の屋台と同じ、富田（現・大平町）に住んでいた磯邊敬信や後藤正秀、大出常吉らの手によるものです。

〔平成元年12月20日 市指定〕



西根屋台



門前屋台



田中屋台



上町屋台



下町屋台



中町屋台

けやき【智賀都神社】 ■ C・5



けやきはニレ科の落葉高木で、本州各地の平地から山地に自生しています。普通は風景樹として、また将来の建築資材として民家や神社仏閣境内に植えられることが多い樹木です。

この2本のけやきは、徳次郎智賀都神社の参道の両側に立っています。樹高は2本とも約40m、目通り周囲は東側の株約8m、西側の株約7.3mで、推定樹齢はともに約700年(指定時)といわれています。西側の株は天に向かい、東側の株は天を受けるように枝を広げています。

〔昭和29年9月7日 県指定〕